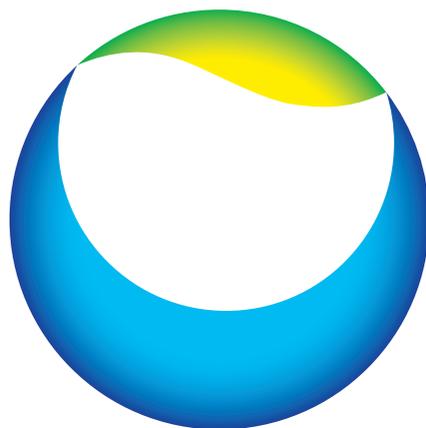


証券コード：4568

第一三共から株主の皆様へ



Daiichi-Sankyo

中間報告書 2006

2006年4月1日～2006年9月30日

第一三共株式会社

ごあいさつ



私ども第一三共株式会社が、「日本発のGlobal Pharma Innovator=グローバル創薬型企業」として2005年9月28日に世界市場での新たな挑戦の第一歩を踏み出してから、一年余が経過しました。現在、2007年4月の三共株式会社と第一製薬株式会社の完全統合の実現に向け、その準備が最終段階にさしかかっています。この完全統合は、三共株式会社と第一製薬株式会社の単なる合体にとどまらず、グループとして業界最高水準の業務運営効率の実現等により、新「第一三共株式会社」をつくることを目指しております。この統合効果の着実な実現を通して、株主の皆様には、成果の還元を行ってまいります。2007年4月に新「第一三共株式会社」がトップスピードで発進できるよう、残る半年、全社一丸となってラストスパートをかけてまいります。

当期の中間配当につきましては、2009年度に純資産配当率（DOE）5%達成の中期目標に向けて安定的な増額を図る方針に則り、1株当たり30円とし、12月1日から株主の皆様にお支払いいたします。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご指導を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

「日本発のGlobal Pharma Innovator」の実現のために



Daiichi-Sankyo

経営統合ビジョン

第一三共グループは、製薬企業の使命である革新的新薬の創出の裏付となる必要規模の研究開発費の確保と、日本市場における卓越した競争力による収益規模の確保をベースに、統合による業界最高水準の事業運営効率を追求することで、高い利益成長を実現し、企業価値の最大化を図ってまいります。

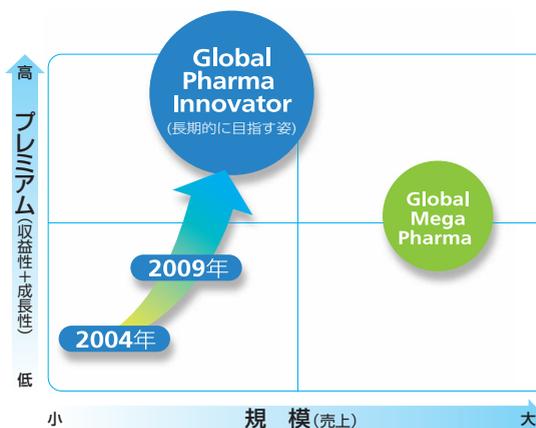


企業価値の最大化

顧客	従業員	社会
<ul style="list-style-type: none"> ●革新的な医薬品・サービスによる医療ニーズの充足 	<ul style="list-style-type: none"> ●公正な人材の配置・登用 ●仕事と成果に応じた適正な報酬 ●キャリア形成の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ●高い倫理観に基づく企業活動 ●環境経営の推進 ●医学・薬学への貢献
株主 <ul style="list-style-type: none"> ●利益成長と株主価値増大の加速 ●国内最高水準の株主還元 		

第一三共の目指すもの

第一三共グループは、売上規模の拡大のみならず、革新的な医療用医薬品の創出を継続することで、重要な領域でナンバーワン企業の地位を有する「高収益型&成長性を持つプレミアム型企業」として飛躍的な向上を目指してまいります。



パイプライン・技術獲得のために
経営資源を積極投入

中間連結決算の状況について

売上高

4,858億円

営業利益

783億円

経常利益

882億円

中間(当期)純利益

668億円

海外売上高比率

40.1%

研究開発費比率
(対売上高)

17.5%

全般的な概況

世界の医薬品市場は、巨大マーケットである米国を中心として規模が拡大するなかで、グローバル・メガ・ファーマが苛烈な開発・販売競争を繰り広げております。

日本市場においては、医療費抑制を目的にした医療制度改革が進展するとともに、台頭著しい外資系メーカーも加わり熾烈な新薬開発、販売競争を展開するなど、製薬産業を取り巻く経営環境は依然として厳しい状況にあります。

当社グループは、有効性と安全性に関する適切な情報提供を基本とするマーケティング活動を展開し、医薬品の適正使用の推進に注力した結果、当中間期の売上高は、4,858億円（前年同期比7.5%増）となりました。国内においては、血圧降下剤**オルメテック**、鎮痛・抗炎症・解熱剤**ロキソニン**、高血圧・狭心症・慢性心不全治療剤**アーチスト**などが伸長し、海外においては、血圧降下剤**ベニカー**（米国）・**オルメテック**（欧州）が大幅に伸長するとともに、合成抗菌剤**レボフロキサシン原薬**が堅調に推移しました。

利益面では、売上高の増加に加え、品目構成の変化等により原価率が前年同期比で2.9ポイント改善し28.4%となり、売上総利益は3,478億円（前年同期比12.0%増）となりました。一方、研究開発面への重点的な資源投入や販売促進費の増加などにより、販売費及び一般管理費は2,694億円（うち研究開発費849億円）となり、営業利益は783億円（前年同期比2.5%減）、経常利益は882億円（前年同期比6.7%増）となりました。

特別損失におきまして事業統合関連損失78億円等がありましたが、特別利益におきまして非医薬品事業の子会社売却益等205億円を計上したことにより、中間（当期）純利益は668億円（前年同期比35.3%増）と大幅な増益となりました。

なお、上記中間期の業績には、当期より米国子会社の第一三共Inc.並びにルイトポルド・ファーマシューティカルズInc.の決算期を12月から3月に変更したことにより、両社の2006（平成18）年1月から9月まで9ヶ月間の業績が含まれています。このうち1月から3月までの業績は、売上高315億円、営業利益90億円、経常利益105億円、当期純利益58億円であります。

セグメント別の概況

医薬品事業

売上高 4,413億円
営業利益 758億円

国内医療用医薬品市場は、本年4月に実施された業界平均6.7%に及ぶ薬価改定の影響の下、推移しました。このようななか、国内医療用医薬品では、高脂血症治療剤**メバロチン**が後発品による影響を受けましたが、広範囲経口抗菌製剤**クラビット**、血圧降下剤**オルメテック**などが収入規模の確保に貢献したほか、抗血小板剤**プラビックス**の薬価収載に伴う一時金収入の寄与もあり、売上高は、2,152億円となりました。

海外医療用医薬品では、欧州及び米国での特許切れの影響で高脂血症治療剤**プラバスタチン原薬**が大幅に減少しましたが、血圧降下剤**ベニカー**（米国）・**オルメテック**（欧州）が大幅に伸長、合成抗菌剤**レボフロキサシ**ン原薬も堅調に推移し、円安傾向による為替差益も寄与したことから、売上高は、1,851億円となりました。

ヘルスケア品では、大衆薬市場が縮小するなか、ビタミンC主薬製剤**システィナC**などが減少しましたが、新製品の総合感冒薬**ルルアタックIB**、発毛促進医薬品**カロヤンジェルローション1**などが寄与しました。また、株式取得によりグループ化したゼファーマ社製品が本年4月から製品ラインアップに加わり、売上高で101億円の寄与がありました。この結果、売上高は、245億円となりました。

その他事業

売上高 444億円
営業利益 22億円

当社グループは、経営資源を医薬品事業へ集中させるため、非医薬品事業の自立化を進めております。当中間期は、富士製粉株式会社は合併により、和光堂株式会社は他社への株式譲渡により連結範囲から除外されたため、売上高及び利益とも前年同期比で減少しております。



広範囲経口抗菌製剤クラビット



高脂血症治療剤メバロチン

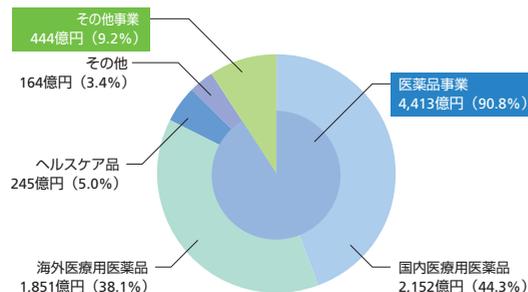


高血圧・狭心症・慢性心不全治療剤アーチス



血圧降下剤オルメテック

事業別売上高構成比



※セグメント別の売上高は、外部顧客に対するものです。

中間連結決算をご報告します

● 中間連結貸借対照表 (要旨)

科目/期別	(百万円)	
	当中間期末 (2006年9月30日現在)	前期末 (2006年3月31日現在)
■ 資産の部		
流動資産	974,918	958,483
現金及び預金	208,480	223,979
受取手形及び売掛金	231,543	240,173
有価証券	318,548	274,510
その他	217,028	220,419
貸倒引当金	△682	△599
固定資産	659,565	637,643
有形固定資産	275,419	289,712
無形固定資産	68,358	36,166
投資その他の資産	315,787	311,763
投資有価証券	261,787	256,338
その他	54,825	55,955
貸倒引当金	△825	△529
資産合計	1,634,483	1,596,126

2006年5月1日施行の会社法により、「資本の部」が廃止され、「純資産の部」が新設されました。これは貸借対照表上、資産性を持つものを「資産の部」、負債性を持つものを「負債の部」に記載し、それらに該当しないものを資産と負債の差額として「純資産の部」に記載するものです。これにより、会社の支払能力などの財政状態を、より適切に表示することが可能となります。

科目/期別	(百万円)	
	当中間期末 (2006年9月30日現在)	前期末 (2006年3月31日現在)
■ 負債の部		
流動負債	243,201	236,833
支払手形及び買掛金	56,408	65,596
短期借入金	5,616	13,547
未払法人税等	32,789	26,169
その他	148,386	131,519
固定負債	107,241	110,154
長期借入金	1,701	3,374
繰延税金負債	26,570	23,926
退職給付引当金	65,468	68,321
その他	13,501	14,531
負債合計	350,443	346,987
■ 少数株主持分		
少数株主持分	—	11,609
■ 資本の部		
資本金	—	50,000
資本剰余金	—	179,858
利益剰余金	—	936,513
その他有価証券評価差額金	—	80,254
為替換算調整勘定	—	735
自己株式	—	△9,832
資本合計	—	1,237,529
負債、少数株主持分及び資本合計	—	1,596,126
■ 純資産の部		
株主資本	1,201,640	—
資本金	50,000	—
資本剰余金	179,859	—
利益剰余金	981,690	—
自己株式	△9,909	—
評価・換算差額等	78,792	—
その他有価証券評価差額金	76,455	—
為替換算調整勘定	2,337	—
少数株主持分	3,607	—
純資産合計	1,284,040	—
負債・純資産合計	1,634,483	—

● 中間連結損益計算書 (要旨)

(百万円)

科目/期別	当中間期	前中間期
	自 2006年4月1日 至 2006年9月30日	自 2005年4月1日 至 2005年9月30日
売上高	485,842	451,808
売上原価	138,022	141,296
売上総利益	347,820	310,512
販売費及び一般管理費	269,466	230,166
営業利益	78,353	80,345
営業外収益	11,526	5,734
営業外費用	1,671	3,436
経常利益	88,208	82,642
特別利益	24,492	3,766
特別損失	14,327	11,236
税金等調整前中間(当期)純利益	98,373	75,172
法人税、住民税及び事業税	52,312	27,439
法人税等調整額	△20,883	△1,516
少数株主損益	58	△201
中間(当期)純利益	66,886	49,450

● 中間連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(百万円)

科目/期別	当中間期	前中間期
	自 2006年4月1日 至 2006年9月30日	自 2005年4月1日 至 2005年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	69,708	66,237
投資活動によるキャッシュ・フロー	△32,726	△24,596
財務活動によるキャッシュ・フロー	△23,150	△37,253
現金及び現金同等物に係る換算差額	160	1,067
現金及び現金同等物の増減額	13,992	5,455
現金及び現金同等物の期首残高	400,967	354,102
連結範囲の変更による増減額	877	△322
現金及び現金同等物の中間期末残高	415,838	359,235

2006年5月1日施行の会社法により、「連結株主資本等変動計算書」が新設されました。これは貸借対照表の純資産の部のなかで、主として株主の皆様には帰属する株主資本について、その会計期間における変動事由と変動額をご報告する書類です。

● 中間連結株主資本等変動計算書 (要旨)

当中間期 (自 2006年4月1日 至 2006年9月30日)

(百万円)

	株主資本					評価・換算 差額等	少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計			
2006年3月31日残高	50,000	179,858	936,513	△9,832	1,156,539	80,989	11,609	1,249,138
中間連結会計期間中の変動額								
剰余金の配当			△18,226		△18,226			△18,226
役員賞与			△343		△343			△343
中間純利益			66,886		66,886			66,886
自己株式処分差益		1			1			1
自己株式の取得				△81	△81			△81
自己株式の処分				4	4			4
連結子会社の新規連結に伴う剰余金減少高			△3,007		△3,007			△3,007
持分法適用会社の除外に伴う剰余金減少高			△131		△131			△131
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)						△2,197	△8,001	△10,199
中間連結会計期間中の変動額合計	—	1	45,177	△77	45,100	△2,197	△8,001	34,901
2006年9月30日残高	50,000	179,859	981,690	△9,909	1,201,640	78,792	3,607	1,284,040

通期の見通しについて

売上高

9,180億円

営業利益

1,270億円

経常利益

1,400億円

当期純利益

630億円

年間配当金（予定）

期末の配当金は、1株当たり30円を予定しており、中間配当金と合わせた年間では、前期より10円増配の1株当たり60円を見込んでおります。

将来予測表記に関する特記

本中間報告書における将来の予測等に関する各数値は、現時点で入手可能な情報に基づく当社の判断や仮定によるものであり、リスク及び不確実性が含まれております。従って実際の業績等は、予測数値とは異なる結果となる可能性があります。

通期の業績につきましては、国内外ともに厳しい市場環境が続くものと予想されますが、第一三共グループのマーケティング・フォースを結集し、市場におけるプレゼンスの確保と収益基盤の強化を図り、その向上に努めてまいります。

<売上高>

医療用医薬品においては、国内市場での薬価改定や米国における高脂血症治療剤**プラバスタチン**の特許期間満了による減収要因を抱え、厳しい環境で推移しております。このなかで、血圧降下剤**オルメテック**（日本、欧州）・**ベニカー**（米国）が国内外において好調であり、米国での貧血治療剤**ヴェノファー**の伸長や合成抗菌剤**レボフロキサシン**原薬輸出の堅調等もあり、前期比で増収を見込んでおります。

ヘルスケア品においては、水虫・たむし治療剤**ラミシールAT**の販売提携解消に伴う減収がありますが、株式取得によりグループ化したゼファーマ社製品の寄与もあり、前期比で増収を見込んでおります。

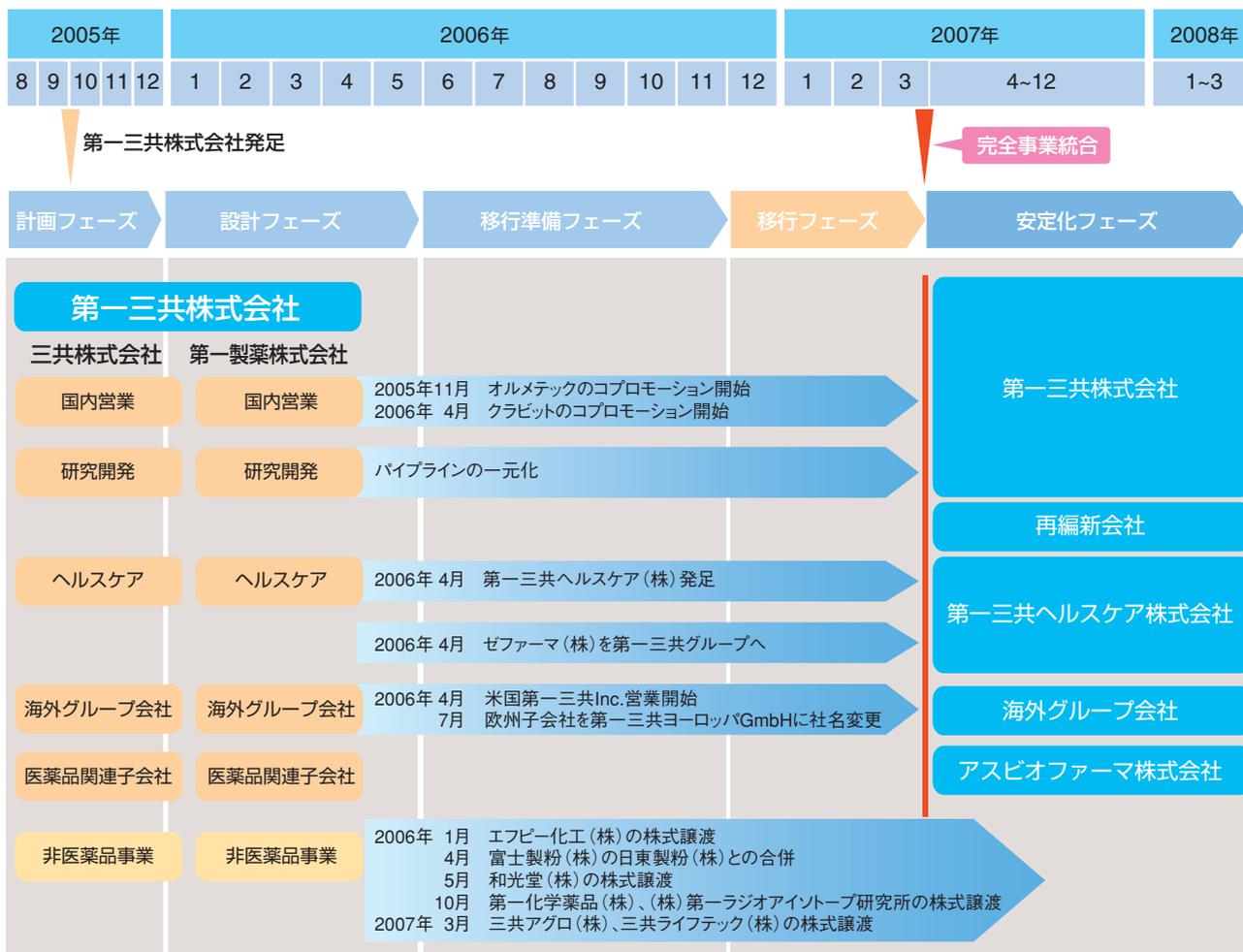
その他事業は、非医薬品事業のグループ外での自立化を進めており、自立化に伴う連結範囲からの除外により、前期比で大幅な減収を見込んでおります。以上を踏まえ、売上高は9,180億円（前期比0.9%減）を見込んでおります。

<利益>

販売費及び一般管理費が、研究開発への重点的かつ継続的な資源投入や海外販売基盤強化などの費用により増加が見込まれることに加え、2007年4月の完全統合に向けての経営統合関連費用の発生を見込んでおります。以上を踏まえ、営業利益は1,270億円（前期比17.9%減）、経常利益は1,400億円（前期比12.3%減）、当期純利益は630億円（前期比28.2%減）を見込んでおります。

経営統合の状況について

完全統合については、スケジュールに従い、2007年4月を目処にフェーズを分けて鋭意取り組んでおります。また、完全統合以前に取り組む課題については、国内営業分野、研究開発分野、海外事業など順次取り組んでいるほか、非医薬品事業のグループ外自立化についても、既に自立化対象子会社のうち12社について自立化が終了または決定されております。



開発パイプライン

完全統合に先立ち、開発パイプラインの一元化と優先度評価による最優先開発課題の選定を行ない、意思決定のスピードを格段に向上させています。また技術的・コスト的シナジーを最大化させ、重点領域である循環器・糖代謝・感染症・癌領域などで効率的な研究開発を継続し、他社に先駆けた“大型製品の市場投入”を目指しています。

※ Phase II 以上を掲載 ※ ☆は効能追加、剤形追加など

開発地域	主な既存品	Phase II	Phase III	申請/承認、上市
● 循環器				
欧米	Pravachol/Mevalotin Benicar/Olmetec WelChol	DU-176b (経口抗Xa剤) HGF遺伝子プラスミド (末梢性血管疾患) CS-9803 (デルタPKC阻害剤) SUN 4936h (急性心不全治療剤/Astellas Pharma USに導出)	CS-747 (抗血小板剤) ☆ CS-8663 (オルメサルタンとアムロジピンの配合剤)	
日本	メパロチン、パナルジン、 オルメテック、アーチスト、 ザンリズム、エースコール、 ハンブ、コバシル、 リパロ、カルブロック	DU-176b (経口抗Xa剤) ☆ CS-866RN (オルメサルタン/慢性糸球体腎炎) ☆ CS-866CMB (オルメサルタンとヒドロクロロチアジドの配合剤)	HGF遺伝子プラスミド (末梢性血管疾患) ☆ CS-866DM (オルメサルタン/糖尿病性腎症) ☆ CS-866AZ (オルメサルタンとアゼルニジピンの配合剤)	
● 糖代謝				
欧米		CS-011 (グリタゾン系) CS-917 (糖新生阻害)	☆ WelChol DM (糖尿病/米国)	
日本	ファスティック			
● 感染症				
欧米	LEVAQUIN/Tavanic FLOXIN Otic BANAN	DU-6859a inj (ニューキノロン剤/注射/米国) CS-023 (カルバペネム系抗生物質/ロシュ社に導出)		SUN A0026 (ベネム系抗生物質/レブリダインが 申請中/北米)
日本	クラビット、カルベニン、パナン	CS-023 (カルバペネム系抗生物質)		DF-098 (Hibワクチン/申請中) DU-6859a oral (ニューキノロン剤/経口/申請中)

開発地域	主な既存品	Phase II	Phase III	申請/承認、上市
------	-------	----------	-----------	----------

● 癌

欧米	camptoser			
日本	トボテシン、クレスチン			

● 免疫・アレルギー

日本	ジルテック	CS-712 (スギ花粉症)		
----	-------	----------------	--	--

● 骨・関節

欧米		CS-706 (COX-2阻害剤)		
日本	ロキソニン、モービック、ミルタックス	SUN E3001 (骨粗鬆症治療剤)	☆CS-600G (ロキソプロフェンゲル製剤)	

● その他

欧米	Venofor Evoxac	SUN N4057 (脳梗塞急性期治療剤) CS-088 (緑内障/参天製薬(株)と共同開発) SUN 11031 (カヘキシア)	SUN0588r (高フェニルアラニン血症/バイオマリンに導出/米国)	
日本	オムニパーク、クレメジン、ザンタック、オムニスキャン、フェロン、エボザック、ユリーフ	CS-088 (緑内障/参天製薬(株)と共同開発) SUN 11031 (神経性食欲不振症)	SUN Y7017 (軽度・中等度及び高度アルツハイマー型認知症) ☆DL-8234 (フェロン効追/c型慢性肝炎/リハビリ併用療法)	DD-723 (超音波造影剤/承認済) ☆CS-1401E (麻酔用鎮痛/申請中) DL-404 (ギャバロン髄注/小児効追/申請中)
中国		KMD-3213 (排尿障害治療剤)		

開発初期のプロジェクト数 (Phase I、前臨床) 総数：24 [循環器5、糖代謝4、感染症7、癌3、免疫アレルギー1、骨・関節/その他4]

ご参考	 <p>Phase I</p> <p>少数の健康人を対象とした安全性、薬物の吸収、分布、代謝、排泄などを検討する試験。</p>	 <p>Phase II</p> <p>対象疾患の少数の患者において安全性を最重点にしつつ、用法、用量の検討、有効性を検討する試験。</p>	 <p>Phase III</p> <p>拡大臨床試験といわれ、数百から数千の患者を対象に有効性と安全性の確認が行われ、有用性を確認する試験。</p>	 <p>申請</p> <p>有用性が確認されたものだけが新薬の製造販売承認の申請がなされます。</p>
-----	---	--	---	---

第32回全日本ライフセービング選手権大会 第一三共ジュニアライフセーバー教室 開催

今年も10月7日・8日の両日、神奈川県藤沢市の片瀬西浜海水浴場で開催されました。このイベントは、水難救助に必要な技術の向上を目的に行われるもので、全国からライフセーバーが集まる日本最大の大会です。また小学校4年生から6年生までの児童を対象とした「第一三共ジュニアライフセーバー教室」も、7月23日の沖縄を皮切りに、全国6カ所で開催されました。今後も積極的な協賛活動を行っていきます。



「第一三共株式会社共催Jリーグ選手協会 ファミリーサッカークリニック」

北海道、関東、関西、東海など全国各地で開催

本年も6月11日の札幌を皮切りに、各地で開催されました。このクリニックでは、お客様には「Jリーガーによるサッカー教室」を、また保護者の方には、「Jリーグドクターによる子供のスポーツと健康に関するセミナー」という2本立てのプログラムが組まれています。ご家族そろって参加できるこのサッカークリニックには、多くのご家族連れに参加いただくことができました。

3種類の成分によるトリプルアタック処方で速攻アタック! ルルアタックIB 新発売

一般用かぜ薬「ルル」シリーズとして初めてイブプロフェンを配合した「ルルアタックIB」を新発売しました。イブプロフェン、塩酸プロムヘキシン、フマル酸クレマスチンの3種類の成分による“トリプルアタック処方”が、つらいかぜの症状にすぐれた効果を発揮します。のどの痛み、熱、せき・たん、くしゃみ・鼻水等の諸症状に有効です。“休めないあなたに”を訴求ポイントに、忙しいビジネスパーソンに向けた販売促進を展開しております。



日本初! 生え際にとどまるジェルローションの医薬品発毛促進薬 カロヤンジェルローション1新発売



日本初となるジェルローションタイプの発毛促進薬「カロヤンジェルローション1」(医薬品)を新発売しました。ジェルタイプのため、生え際でも液がたれにくく、有効成分がしっかりととどまります。カロヤンシリーズの特徴である塩化カルプロニウム(1%配合)が発毛促進に重要な血管拡張作用を促すほか、頭皮の余分な脂質を除去するカシュウ、髪の毛の生育を促進させるチクセツニンジンなどの生薬成分も配合。複合的な作用でさまざまな脱毛の要因に応えます。

第一三共CSR活動について

社会とともに

コンプライアンスを基盤とした 企業の社会的責任活動の推進

当社グループのCSR活動の基盤は、コンプライアンスです。コンプライアンスは、法令遵守と訳される場合が多いのですが、当社グループでは、法令遵守にとどまらず、広く社会倫理的な考え方を尊重しています。その一環として、コンプライアンス方針を「第一三共グループ企業行動憲章」に、具体的内容を「第一三共グループコンプライアンス行動基準」に定め、グループ内に徹底するとともに、ホームページ等にて公表しております。「第一三共グループ 社会・環境報告書2006」では、当社グループの現在の状況や環境について報告するとともに、「社会性報告」のなかで、製薬企業の研究開発から販売後までに関係する種々の法令及び自主基準について説明しております。当社グループは、生命関連産業として、「生命の尊重」や「人権の保護」を最優先に医薬品の研究開発、製造販売を行っております。また、当社グループでは社会貢献活動も積極的に行っております。サッカーを通じて子供の健全な育成を支援する「子供サッカープロジェクト」、ライフセービング活動を通じて命の大切さを啓発する「ジュニアライフセーバー教室」を全国的に展開しております。一方、全国の事業所周辺地域との交流を大切にしており、事業所周辺での清掃活動や防犯対策への協力やグラウンドの開放等地域に則した活動をしております。



JICA研修生とともに

環境への取り組み

地球環境保全活動の推進

現在、地球規模で問題になっている温暖化現象に歯止めをかけるため、世界各国で温暖化防止対策が検討されています。当社グループでも、環境保全活動の重要テーマとして、二酸化炭素排出量の削減に努力しております。具体的には、クールビズやウォームビズ活動への取り組み、営業車の低排出ガス車への切替え及びグリーン電力の購入等を積極的に実施しております。

環境保全活動としてもう一つ重要なテーマは、省資源・廃棄物削減対策です。医薬品の生産過程で出る廃棄物量を毎年削減するとともに、再資源化等を積極的に進めており、最終的な処分量は、1990年度比で7%（93%削減）以下に低下し、廃棄物発生量の1%以下の処分量となっています。今後もゼロエミッションに向け更なる努力をしていきます。



第一三共グループ
社会・環境報告書2006

また環境保全活動の一環として、国際協力機構（JICA）等の依頼を受け、海外（ブラジル、中国、ガーナ等）からの環境対策等に関わる研究者や行政官の工場での技術研修会を実施し、国際貢献しております。

当社グループのCSR活動をより詳細に記載した「第一三共グループ 社会・環境報告書2006」は、以下のアドレスでご覧いただけるほか、冊子の送付も行なっております。

<http://www.daiichisankyo.co.jp/company/report/index.html>

企業インフォメーション

● 商号

第一三共株式会社
(英文：DAIICHI SANKYO COMPANY, LIMITED)

● 設立

2005年9月28日

● 事業内容

医薬品事業を営む子会社及びグループ経営管理等

● 本社所在地

〒103-8426
東京都中央区日本橋本町三丁目5番1号

● 従業員数

83名

● 役員

(2006年9月30日現在)

代表取締役会長	森	田	清
代表取締役社長	庄	田	隆
取締役	永	迫	弘幸
取締役	池	上	康弘
取締役	采		孟
取締役	杉	村	征夫
社外取締役	仁	平	圀雄
社外取締役	西	川	善文
社外取締役	矢	部	丈太郎
社外取締役	杉	田	力之
常勤監査役	和	田	耕三
常勤監査役	井	上	敦郎
社外監査役	島	田	馨
社外監査役	樋	口	公啓

● 事業所（グループ）

研究拠点	<ul style="list-style-type: none"> ■ 東京都（品川区、江戸川区） ■ 第一アスピオファーマ（株）（大阪府三島郡）
営業拠点	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全国
生産拠点	<ul style="list-style-type: none"> ■ 小名浜・平塚・小田原・大阪 ■ 第一ファルマテック（株）（大阪・静岡・秋田）

主要医薬品

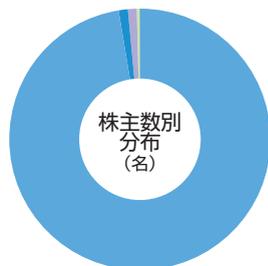
循環器	<ul style="list-style-type: none"> ■ メパロチン（高脂血症治療剤） ■ オルメテック（血圧降下剤） ■ リバロ（高脂血症治療剤） ■ エースコール（血圧降下剤） ■ カルブロック（血圧降下剤） 	<ul style="list-style-type: none"> ■ パナルジン（抗血小板剤） ■ アーチスト（高血圧・狭心症・慢性心不全治療剤） ■ コバシル（血圧降下剤） ■ サンリズム（不整脈治療剤） ■ ハンブ（急性心不全治療剤）
感染症	<ul style="list-style-type: none"> ■ バナン（抗生物質製剤） ■ カルベニン（抗生物質製剤） 	<ul style="list-style-type: none"> ■ クラビット（広範囲経口抗菌製剤）
その他	<ul style="list-style-type: none"> ■ クレメジン（慢性腎不全用剤） ■ ロキシニン（鎮痛・抗炎症・解熱剤） ■ ファスティック（血糖降下剤） 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ジルテック（アレルギー性疾患治療剤） ■ モービック（非ステロイド性消炎・鎮痛剤） ■ オムニパーク（X線造影剤）

株式について

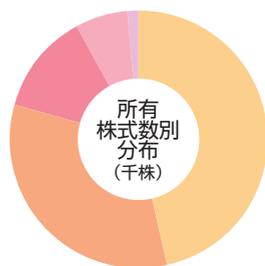
● 株式の状況

(2006年9月30日現在)

■ 発行可能株式総数	2,800,000,000株
■ 発行済株式総数	735,011,343株
■ 単元株式数	100株
■ 株主数	58,007名



■ 個人・その他：56,490 (97.38%)
■ その他の法人：662 (1.14%)
■ 外国法人等：631 (1.09%)
■ 金融機関：178 (0.31%)
■ 証券会社：45 (0.08%)
■ 自己株式：1 (0.00%)

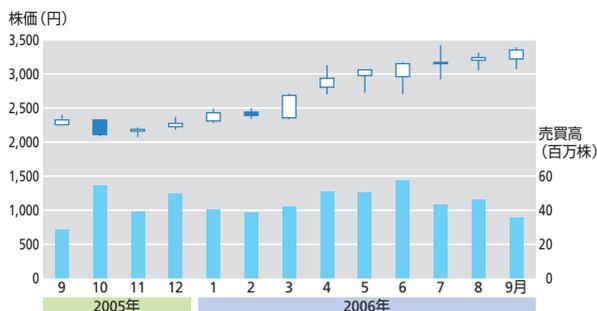


■ 金融機関：341,336 (46.44%)
■ 外国法人等：241,782 (32.89%)
■ 個人・その他：92,972 (12.65%)
■ その他の法人：48,532 (6.60%)
■ 証券会社：10,326 (1.41%)
■ 自己株式：63 (0.01%)

● 大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	59,995,000	8.16
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	44,112,500	6.00
日本生命保険相互会社	41,839,182	5.69
ザチェースマンハッタンバンク エヌエイ ロンドン エスエル オムニバス アカウント	16,790,400	2.28
株式会社三井住友銀行	13,413,368	1.82
ステートストリートバンクアンドトラスト カンパニー505103	12,728,367	1.73
株式会社三菱東京UFJ銀行	9,468,983	1.29
東京海上日動火災保険株式会社	9,328,109	1.27
株式会社みずほコーポレート銀行	8,591,876	1.17
ピー・エヌ・ビー・パリア・セキュリティーズ(ジャパン) リミテッド(ピー・エヌ・ビー・パリア証券会社)	8,515,102	1.16

● 株価の推移 (月足)



株式に関するお問合せは、下記株主名簿管理人までお願いいたします。

フリーダイヤル **0120-232-711**

なお、株式に関するお手続き用紙(届出住所・印鑑・姓名等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式買取・買増請求書、名義書換請求書等)のご請求につきましては、次の三菱UFJ信託銀行の電話及びインターネットでも24時間承っております。

フリーダイヤル **0120-244-479** (本店証券代行部) **0120-684-479** (大阪証券代行部)

インターネットホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

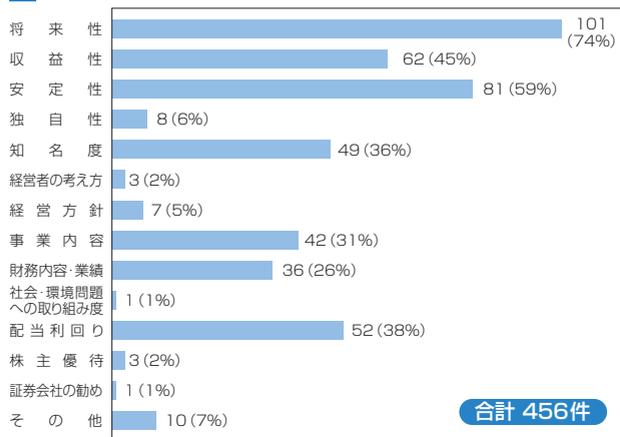
「株券等の保管振替制度」をご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社にご照会ください。

お問合せ先

株主の皆様へのアンケート集計結果

前期の事業報告書でご協力をお願いしました、アンケートにおきましては多くの方々からご回答をいただき、誠にありがとうございました。当社では貴重なご意見として、今後の活動へ反映させていきたいと考えております。ここにご意見の一部ですがご報告させていただきます。

Q 当社の株式を購入した理由は何ですか？ (単位: 件)



※()内の数値は有効回答数137件に対する回答率を示します。

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、下記の方法にてアンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

 <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード **4568**



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



空メールによりURL自動返信

kabu@wjim.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

- アンケート実施期間は、本中間報告書がお手元に到着してから約2ヶ月間(2007年2月10日まで)です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

- アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」
TEL: 03-5777-3900 MAIL: info@e-kabunushi.com

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
	※当社の配当金受領方法は、郵便振替支払通知書によるお支払いのほか、銀行預金口座または郵便貯金口座への振込を選択できます。
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	100株
	※単元未満株式の買取請求・買増請求の手続きは、株主名簿管理人へお申し出願います。 (株券等の保管振替制度をご利用の株式については、お取引先の証券会社でお手続きください。)

公告掲載URL	http://www.daiichisankyo.co.jp/ 当社の公告は電子公告により行います。但し事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
上場証券取引所	東京・大阪・名古屋 各証券取引所 第1部
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話0120-232-711 (通話料無料)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 全国本支店



〒103-8426 東京都中央区日本橋本町三丁目5番1号
<http://www.daiichisankyo.co.jp/>

〈お問合せ先〉 コーポレートコミュニケーション部 TEL.03-6225-1126 FAX.03-6225-1132



古紙/パルプ配合率100%再生紙を使用しています



この報告書は、環境に優しい大豆油インクを使用して印刷しています。